

平成27年度 まちづくり推進部 大森地域局 方針書

まちづくり推進部 大森地域局長 長谷山 達夫

1. 大森地域局の使命（役割）

多様な地域資源を活用し、地域住民との協働により「人、心、ふれあう郷土(まち) おおもり」を目指して、「人にやさしく、特色ある地域づくり」を推進します。

2. 平成27年度における課題（前年度の振り返りから）

- (1) 地域づくり協議会とともに策定した「第2期大森地域づくり計画」を関連機関と連携のもと、着実に実施していかなければならない。
- (2) 引き続き地域の共助組織活動への支援を行うとともに、高齢者世帯等への積極的なかわりにより「安心・安全な地域づくり」を目指していかなければならない。
- (3) 東京都大田区大森やグリーンツーリズム推進協議会など地域内外の関係団体との連携を一層密にし、地域産業の核となる農産物の生産、流通販路の拡大により、農家所得の向上を図る必要がある。

3. 平成27年度の『スローガン』

**地域の思いや声を正面から受け止め、
信頼される地域局になろう！**

4. 年度目標となる方針（目標）

- ①笑顔があふれる活力ある地域づくり
- ②安心・安全な地域づくり

5. 重点取組項目

(1)	項目	地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進
	取組内容	①都市公園となる大森公園の整備計画を策定し、地域内外から多くの利用者が訪れる公園整備を目指す。 ②関係団体との連携により、地域内農産品等の販路拡大を図る。 ③交流人口の拡大を目指し、地域資源を活用した活動団体等への支援を行う。
(2)	項目	市民協働による地域見守りネットワークの構築
	取組内容	①高齢者世帯等、日常生活に不安を抱える世帯に対し関係団体との連携により見守り体制の充実を図る。 ②子ども達にとって安全・安心な地域づくりを目指し、子ども達の見守りネットワークの構築に取り組む。
(3)	項目	明るく元気なあいさつの励行
	取組内容	来庁される市民の方々へはもちろんのこと、職員間においても「明るく元気なあいさつ」を励行し、明るさあふれ、市民の皆様にも親しまれる地域局を目指す。

6. 方針に対する年度上期（4月～9月）の取組みの状況【現状】

(1) 地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進

・「元気の出る地域づくり事業」を活用し、特産品である大森ワイン用ぶどう後継者育成事業（視察研修）などを実施。今年度新規にワイン用ぶどう栽培に取り組む生産者が加わった。

・交流人口の拡大では、グリーンツーリズム協議会が中心となって昨年を上回る中学生等を受け入れた。また、棚田オーナー制度では今年新たに沖縄からも10名の方々が登録するとともに、関係団体との連携の下、芝桜フェスタでは多くの来場者を得ることができた。

(2) 市民協働による地域見守りネットワークの構築

・災害時の要支援高齢者への支援等を目的とした自主防災組織（大町）が立ち上げられた。

・高齢者一人暮らし世帯等、要支援世帯のリストについて、4月以降の変動を把握し、最新の対象者名簿を作成した。

・子育て支援ネットワーク構築のための準備作業として、関連団体等との調整を行うとともに、現在、子育て支援ネットワーク委員会（仮称）設置要綱を作成中。

また、現在見守り支援を必要としているお子さんについて、緊急時の対応のため、関係部署（病院、消防、保健師等）が連携して支援できる体制を整備した。

(3) 明るく元気なあいさつの励行

・活力ある地域づくりや安全安心な地域づくりを行うためには、何よりもまず職員が元気であること。また、日常的に良好な職場環境や情報共有の意識を持つことが肝要と考え、これらの意識醸成のため元気な挨拶の励行を行っている。あわせて、日常業務の中で各職員がお互いの業務や行為を認め合う環境づくりを行うため、成果を上げた業務や善行等について全職員が情報共有できる体制を作っている。

7. 年度下期（10月～3月）に向けた課題と取組みの方針【ギャップと対策】

(1) 地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進

・10月に予定されている大田区大森商店街における特産品販売会、11月の大田区におけるOTAフェスタにおいて特産品の販売とPR活動を実施する。

・来年は大森ワイン発売から30周年になることから、これに向けたイベント等について検討を行う。

・グリーンツーリズム関係の受け入れ事業は概ね終了したことから、今年度の振り返りと来年度事業への取り組みや支援方法等について関連団体と検討を行う。

(2) 市民協働による地域見守りネットワークの構築

・10月には八沢木地区で徘徊見守り訓練を実施する。今回で大字単位での訓練は一巡するが、来年度以降も継続し実施する。

・冬休み前に子育て支援ネットワーク委員会（仮称）を設置し、子ども達の見守りや子育て支援に関する体制の整備を行う。

(3) 明るく元気なあいさつの励行

・引き続き明るく元気な挨拶を励行することなどにより、職場環境の改善を図り、意欲的な姿勢で市民サービスの向上に努める。

8. 総括 取組みの結果と成果、次年度に向けた課題【結果と成果】

(1) 地域資源を活用した活力ある地域づくりの推進

・11月の大田区のOTAフェスタについては2日目に雨が降り客足が鈍ってしまったが、特産品の販売やPRは十分できた。10月の大森商店街における物産販売ではリピーターの方々も増え、一定の成果が得られた。

今後の取り組みとしては、これらPR事業、交流事業に関わってくださっている方々が固定化しつつあるため、28年度においては若い方々にも加わっていただき、新たな視点からの事業展開が必要と考えている。

・来年度の大森ワイン発売30周年に向けて、イベントの運営方法等についてメルシャン様との初期の打ち合わせや地元JA、生産者組合の方々などとの打合せを実施している。

・グリーンツーリズム関連事業に関しては、中学生等の受け入れ人数の増や棚田オーナー制度に新たに沖縄から10名の方に登録いただけるなど成果が数字で出てきており、各関係団体の皆様にはご努力いただいている。

課題としては、新たにこの事業に取り組んでいただける方の育成や体制の整備を行い、事業の拡大を図ることにある。

(2) 市民協働による地域見守りネットワークの構築

・高齢ひとり暮らし世帯や見守り世帯等133世帯を民生委員や保健師等と訪問する事が出来た。その際には福祉制度等の説明も行い、ふれあい安心電話等の申し込みも受ける事が出来た。

・12月には「子育て支援ネットワーク委員会」を設置した。その後、より具体的な対応等を検討する「ケース検討会義」を設け、関係部署、関係機関と情報共有を行うとともに、支援におけるそれぞれの役割等を確認する事が出来た。

今後の課題としては、高齢者の見守り、子どもの見守りともに地域住民の皆さんも含めた見守り体制の構築が必要と考えられる。

(3) 明るく元気なあいさつの励行

・あいさつは、コミュニケーションを円滑に行うための重要なツールであるということ意識し、取り組む事が出来た。これによって、市民の皆様が気持ち良く来庁していただける環境づくりが出来た。また、業務を遂行する上でも、職員間で良好な関係性ができたことにより、協力体制を構築することが容易となった。

基本的なマナーではあるが、今後も引き続き明るく元気なあいさつの励行を行っていく。